

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501795), 法人名 (三愛商事株式会社), 事業所名 (グループホーム 里の家平岸 ぼぶら), 所在地 (札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号), 自己評価作成日 (平成29年5月25日), 評価結果市町村受理日 (平成29年7月3日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年6月19日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの際に4つの理念を唱和し理念の中にある利用者の「自由に」や「自分らしく」など意識して取り組めるようにしている。また、各ユニットごとの目標に加え全体では1年を通して「相互交流」という目標を掲げ実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員は資源回収や花壇整備など町内会の行事への参加を積極的に行っている。利用者も町内会から案内がある催し物に都度参加しているが限られた方のみになることがあるため、全体的な交流は今後の課題となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症」について各職員が定期的に内部研修や外部研修に参加している。学んだことを日常の業務で実践していき、その様子を地域の行事に参加した際に見て頂き少しずつ身近なものに捉えていけるように取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やご家族への参加の促しを行い日常の取り組みへの意見や要望などを伺いサービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。また、職員もできる限り参加することにより地域の関連機関の情報や災害時の対応など周知に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に市町村担当者との連絡や情報交換は主に管理者が行っている。今後は各職員も運営推進会議や連絡会、外部研修などに積極的に参加し、情報交換や連携がとれる関係性を築けるように努めていきたい。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ユニット含めて玄関フードで外気に触れたりそれぞれの交流を楽しんでいる現状を踏まえて、可能な範囲で職員の見守りの配置ができる時には玄関の施錠はしていない。また、ユニット内でも身体拘束をしないケアの在り方について日常的に話し合わせ実践に繋がれるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通して各職員に虐待防止の注意を促している。目に見えるものだけでなく、言葉の抑制や訴えたことに対応しないなどがないように職員同士が日常的に注意し合える環境作りに努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に各職員が権利擁護に関する研修に参加している。日常的には管理者より利用者が尊厳をもって生活することができるよう多目的に働きかけるための指導があり、職員はそれを活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する利用者やご家族への対応は主に管理者が行っており、内容は都度書面化し申し送られている。急遽利用となった特別訪問看護の契約には職員も説明や書類の預かりなどに関わり、今後活かせる体制作りができた。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には利用者の近状を伝え、ご家族が話しやすい雰囲気づくりや信頼関係に繋げていけるよう取り組んでいる。また、ユニット内に「苦情についての御説明」を掲示し、相談・苦情申し立ての手順や窓口の案内をわかりやすくしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的に全職員と面談の取り組みを実施している。その際には個人の思いや意見を聞き取り検討され、業務の見直しに繋がっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時業務内容の見直し、調整を行い休憩時間の確保が昨年よりできている。職員個々の勤務希望や働きやすい職場環境作りを努めている。また、管理者は業務に関すること以外にも職員のストレスケアにも目を向け全体的な調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は日常的に各ユニットで個々の利用者に向けた支援の指導を行っている。職員の力量の把握に努め、各職員に必要なスキルを獲得できるように内部研修の調整及び外部研修の促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ユニットリーダーを中心として他のグループホームや近隣の施設などの見学を積極的に行っている。その際には質問や相談、情報交換を交えネットワーク作りを努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴れない環境に置かれる不安を少しでも軽減できるように関わりを重視し、ご本人にとって必要な支援が導き出せるように関係作りに努めている。関わりの中で得た情報は全体で周知し今後の支援に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では遠慮があり希望や要望を伝えられないことが多い為、サービスの概要についてはしっかりと説明し後からでも追加や変更が出来ることを伝えご家族の心情に合わせた対応ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査において「何に困っているか」「何を支援するか」を明確にし、ホームでの生活で安心してサービスが受けられるように努めている。また、利用開始時には生活全般に対する聞き取り表を作成し情報共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてご本人のやりたいことや生きがいを日々のレクや行事などに取り入れるように努めている。毎日の生活に張り合いをもって何事も一緒に取り組むことにより互いの信頼関係に繋がっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヵ月に1度ケアプランの更新時にご家族と面会を含めた話し合いの場を設けている。また、定期的に近状報告を行い、今後の外出行事の内容の相談やご家族も参加できるか伺うなど家族交流に繋げていける取り組みをしていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望によりご家族の協力を得て外出し、想い出の場所や飲食店での食事ができている。また、個別行事の取り組みでは、これまでの生活の馴染みの人や場所などとの関係の継続ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で意思の疎通が図れないときには職員が介入し、お互いが理解できるように支援している。利用者同士が声を掛け合い一緒に家事を行ったり、お茶を入れあったりする場面も見られ関わりが増えてきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居があっても今までの信頼関係を大切にし、その後の状態についてもご家族からの相談に可能な限り応じられるように努めている。ご家族から退居後もホームに来設希望があり信頼関係の継続ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活を基に自分らしい生活ができるよう希望・意向を聞き、職員間で情報を共有している。言葉で表現できない方もいるためご家族も交え話し合ったり動向を観察し、ご本人にとってどんな状況が快適なのか把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族、時にはご友人などからもこれまでの生活について聞き取りを行い、利用者自身が生活しやすく馴染みのあるものや、人との交流が継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活で利用者自身が自分で出来ること、出来そうなことを把握しその時の心身の状態に応じて適切な支援ができるよう取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な関わりの中で利用者の希望や要望、困っていることなどを聞き取り課題を明確にし介護計画を作成している。また、ご家族の意向や医療関係者からの助言も介護計画に反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状況は常に変化があるということを念頭に置き、今どのような状態が何ができ、またできなくなったことなどを記録に残し今後どのように支援していくかを話し合い、介護計画とその実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に合わせ適切な支援ができるよう努めている。対応できない課題がある時にはご家族にも相談し可能な範囲で代替的な支援に繋げられるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事では祭りの際に駐車場を休憩所として利用していただき、地域の方々との関わりの場を設けている。地域の傾聴ボランティアの受け入れもしており、社会との繋がりになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は内科、歯科、皮膚科など受けており、定期的かつ必要時に対応できている。その他個々の希望の医療機関に関しても身体状況や時期を検討し希望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護を受けている。個々の心身状態を報告・相談することにより適切なケアが行えるように努めている。必要があれば担当医への報告や受診もできるため利用者の日常的な安心にも繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の日常の状態や入院した際の状態について担当医師、看護師、相談員、ご家族と話し合いを重ね早期退院の働きかけに努めている。治療状況に応じて利用者やご家族の意向を伺い、今後の支援に繋げていけるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者やご家族の希望を定期的に伺っている。その時々々の体調に応じて主治医からの説明も加え今後のケアサービスの方向性を都度話し合い、より良く希望に近いものになるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え定期的に研修を受けている。緊急時に必要な情報を取りまとめている「緊急時用ファイル」を日常的に確認し職員は各利用者の詳細な情報を把握するよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し様々な想定の状態を話し合い、各職員がシュミレーションできるよう取り組んでいる。また、重度化が進んでいる状況も踏まえ実際に職員間で重度の方の避難方法を話し合い、実践に結びついている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令的な言葉を使わない、排泄の誘導は小声で行うなどご本人の羞恥心に配慮した支援ができるように取り組んでいる。些細なことでも話し合い、改善できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的になにげない会話の中から心の中にある思いをくみ取れるように傾聴し、ご本人の自己決定に結びつけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別行事を取り入れ、利用者がそれぞれ何をしたいかどこに行き、何を食べたいか日頃の傾聴によりできる限り実現できるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの上着を取りやすい場所に置いたり、入浴の際には自身で着たい服を選んでいただく対応をしている。起床後や静養後に髪を整えやすいようヘアスプレーも使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、調理、後片づけを一緒に行うことが日常的にできている。ホットプレートを使用することにより、現在は自発的に行われる方も増えている。食べたい物や作りたい物の希望も聞き、食事を楽しむことに繋がられている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量や好みの食べ物の聞き取り、適量で食べやすい食事の提供を心掛け日々の食事を楽しめるよう努めている。また、好みの飲み物の提供や病状に合わせた摂取カロリーの調整ができる取り組みもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし、個々の状態に応じた介助を行っている。夕食後は義歯を預かり消毒し口腔内の衛生に努めている。義歯に不具合がある時には週に1回の訪問歯科で対応することができる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の排泄状況を把握していき、適時トイレ誘導の声掛けを行っている。現在ほとんどの入居者がおむつを使用しているため、汚染する前に対応できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の促しや食物繊維、乳酸菌が摂れる食事の提供を心掛け自然排便に繋がられるよう努めている。また、排泄チェック表を活用することにより日々の排便状況を把握し、適時下剤調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の好みに合わせ湯の温度を調整したり、好みの入浴剤を選んで頂くなど入浴を楽しめるように努めている。排便があった後のシャワー浴や入浴の希望があった時にはいつでも対応できるように取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体内リズムに合わせて適時静養の促しを行っている。また、日中はお気に入りのソファでの休息が望ましい方もいるためその日の体調を観察しながら日々の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や薬付けの担当者がそれぞれ情報の伝達を確実にできるよう書面化し職員全員が周知できるように努めている。また、薬の用途や副作用を把握できるように都度情報を綴ることにより日々確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に利用者それぞれのやりたいことに目を向け、できるように支援している。個別的に対応しながら全体的に楽しんで取り組めるレク・行事に繋げていけるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物同行などの外出の希望があったときにはその都度対応できるように取り組んでいる。特別な希望に対しては毎月の行事の中で出来る限り対応できるようにご本人の希望や面会時にご家族とも話し合っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には自身で支払いをして頂くことを考慮した行事の取り組みをしている。ただ、利用者全員が対象ではないためユニット内行事でチケット交換での代替えとなる取り組みも継続している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からハガキや荷物が届いたときには共に声を出して読みあったり自ら開封するなどご本人の楽しみに繋がるように取り組んでいる。また、お礼の電話ができるよう促している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや各居室の入口に日々の行事や日常風景の写真を貼りだしたり、季節に合った装飾をすることにより利用者同士が想い出を語り合い適度な刺激になるよう取り組んでいる。また、全居室にそれぞれ温度・湿度計や加湿器を設置、利用することにより快適に過ごせるように環境面でも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者がそれぞれにお気に入りの場所で飲み物やおやつを楽しめるように数か所にソファを配置し移動式テーブルも活用している。日常的に過ごされる定位置もあるため、落ち着いて過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で過ごす時間帯を個別に考慮し、過ごしやすいよう使い慣れた物を配置したりご本人の希望・要望を都度伺い、必要な物品を用意している。ご家族からのハガキや面会時の写真、レク時の作品を飾り楽しめる寛ぎの空間にできるように取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりや掃除用具、日常的に使用する茶器などをわかりやすい場所に置いて声掛けすることにより日々の日課に出来るように工夫している。移動の動線上に危険がないよう定期的に話し合いながら環境整備に努めている。		